

「入門複素解析 1 5 章」正誤表 (2016年5月)

ページ	行	誤	正
20	↓9	よぼう	呼ぼう
24	↓3	$ z ^2 =  \bar{z} ^2 = z\bar{z}$	$ \operatorname{Re} z  \leq  z ,  \operatorname{Im} z  \leq  z ,  z ^2 =  \bar{z} ^2 = z\bar{z}$
28	↓8	となる. $z_2 \neq 0$ ならば	となる. これより $\arg(z_1 z_2) = \arg z_1 + \arg z_2$ である. また $z_2 \neq 0$ ならば
33	↓7	$e^{i\varphi}$ (2箇所)	$(\cos \varphi + i \sin \varphi)$
35	↑10	したがって	$d(0, \beta) = d(0, f(\beta))$ であるから
119	↑3	$U_R(z)$	$U_R(\alpha)$
119	↑2	$ f(\zeta) $	$ f(z) $
122	↑6	$D - C$	$D \setminus C$
127	↓12, 13	$h(z_n) = 0$ から $h(z_0) = 0$ となり,	$h(z_0) = 0$ であるから,
131	↓3	滑らから	滑らかな
146	↓7	(被積分関数の分母) $W^{n+1}$	$W^{n+2}$
146	↓10	(被積分関数の分母) $(\zeta - z_0)^{n+1}$	$(\zeta - z_0)^{-n+1}$
149	↓8	■	(削除)
150	↓7	(式の後に次を挿入)	, $g(z_0) \neq 0$
150	↓13	任意の $\lambda$	$z_0$ が $f(z)$ の真性特異点のとき任意の $\lambda$
150	↑8	ある $\lambda$ に対して	ある $\lambda \in \mathbb{C}$ に対して
151	↓1	ことになり, 定理が証明された。	ことになる. また, $\lambda = \infty$ に対して定理に言う点列がとれないということは, $f(z)$ が $z_0$ の近くで有界となり定理 12.2 から $z_0$ が真性特異点ではなくなる. こうして定理が証明された。
164	↑5	$x = i$	$z = i$
187	↑9	両辺が	両辺の
192	↓3	とよばれる.	と呼ばれる.
200	↓3	5. 1.	5. $\alpha, \beta$ のいずれかが負の整数のとき $\infty$ . そうでないとき, 1.
201	↓1	$\infty$ で $f(z) =$	$\infty$ である. 第 6 章によれば, $f(z) =$
201	↓5	$\infty$ で $f(z) =$	$\infty$ である. 第 6 章によれば, $f(z) =$
203	↓7	(2) $-\pi$ .	(2) $\pi$ .